

病院規模に適したX線テレビシステム FLEXAVISION F4 packageの 使用経験について



新井 偉生 先生

東松山市立市民病院 診療支援部 放射線科
新井 偉生

1. 病院紹介

東松山市は埼玉県ほぼ中央に位置しており、今年(2024年)7月1日に市制施行70周年を迎えた。緑豊かな自然丘陵地に囲まれながら、都心へのアクセスも電車で1時間程という事もあり住みよい街でもある。当院は開設から60年の歴史を持ち、病床数150床(一般病床146床、感染症病床4床)で二次救急医療を担う比企地区(東松山市ほか6町1村)の中核病院である。近年は脳神経内科や脳卒中治療専門医、そして消化器内科など高度な専門性を備えた医師が新たに加わり、救急医療・高度専門医療体制の強化を図っている。地域住民の皆さまに安心感を与えられるよう病院理念に「私たちの心はいつも患者さんのために」と掲げ、急性期医療を主体とした中核病院を目指し改革を続けている(Fig.1)。



Fig.1 東松山市立市民病院

X線テレビシステムは診療部門に2部屋、健診センターに1部屋ある。そのうち診療部門の2部屋に島津製作所社製FLEXAVISION F4 packageとSONIALVISION G4 LX edition(以下G4)を2023年に同時に導入した。G4にはオプションであるSmartBMDやSLOT Advance, Tomosynthesisを搭載している。診療放射線技師は11名(放射線科8名、健診センター3名)在籍している。

今回は、X線テレビシステムFLEXAVISION F4 package(以下F4)の使用経験について報告する。

2. 装置導入の経緯

診療部門のX線テレビシステム2台が更新時期を迎え、時を同じく骨密度測定装置が故障で修理不能となった。旧X線テレビシステム1台は島津製作所社製SONIALVISION safire17を使用しており、装置更新にあたりSLOT AdvanceやTomosynthesisの機能は維持しつつ、整形外科医師からの強い要望もあり、骨密度測定もできるG4(Fig.2)に決定した。以前、骨密度測定装置は別の撮影室で稼働していたが、装置更新によりスペースの有効利用という点についてもメリットは大きかった。もう1台の機種については、すべての診療科から依頼される透視検査(内視鏡的逆行性胆道膵管



Fig.2 SONIALVISION G4 外観

